

2019年11月14日

報道関係各位

## 11月14日は世界糖尿病デー

### 世界の糖尿病患者数は4億6,300万人に

世界糖尿病デー実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・公益社団法人日本糖尿病協会）は、11月14日の世界糖尿病デーに約200か所の著名な建造物をブルーにライトアップし、糖尿病の正しい知識を啓発するイベントを全国で実施します。

IDF（International Diabetes Federation／国際糖尿病連合）は、世界の糖尿病人口に関する最新の数字を発表しました。（IDF Diabetes Atlas 9<sup>th</sup> Edition 2019）

それによりますと、2019年現在、予備群を含む糖尿病患者は、**4億6,300万人**となり、2017年の総患者数より**3,800万人**増加しました。**2045年には約7億人に増加する**と予測されています。また、全世界での糖尿病に関する医療費は、2019年に**7,600億USD（約83兆円）**に上りました。これは、総医療費の約10%を占めており、世界経済の圧迫要因となっています。

日本を含むアジア・太平洋地域の患者数は1億6,300万人、10人に1人が糖尿病をもつ計算です。世界の患者数の35%がこの地域に集中しており、糖尿病を原因とする死亡数も130万人と世界最多となっています。

糖尿病は、放置すると網膜症、心疾患、腎臓、神経、足病変などの重篤な合併症をもたらす疾患です。世界の推定患者数のうち、2人に1人は糖尿病と診断されずにおり、さらに3億7,400万人以上の成人が2型糖尿病の予備群とされています。また、糖尿病と診断された人の4分の3は、20～64歳の働く世代、5人に1人が65歳以上の高齢者という状況です。したがって、早期の診断と適切な治療継続の重要性が強調されています。

今回、IDF Diabetes Atlas 2019を発表したIDF会長のNam Han Cho氏は、次のように述べています。「糖尿病は地球規模で取り組むべき重要な健康課題であり、社会経済に与える影響は無視できないものがあります。糖尿病患者の増加、特にまだ診断されていない予備群の増加に人々は重大な関心をもつべきで、今後は2型糖尿病の発症予防、糖尿病の早期診断や合併症予防に注力することが求められています」

より詳細な情報は、IDFのHP「IDF Diabetes Atlas 9<sup>th</sup> Edition2019」でご確認いただけます。

<http://www.diabetesatlas.org>

## ■世界糖尿病データ関連データ■

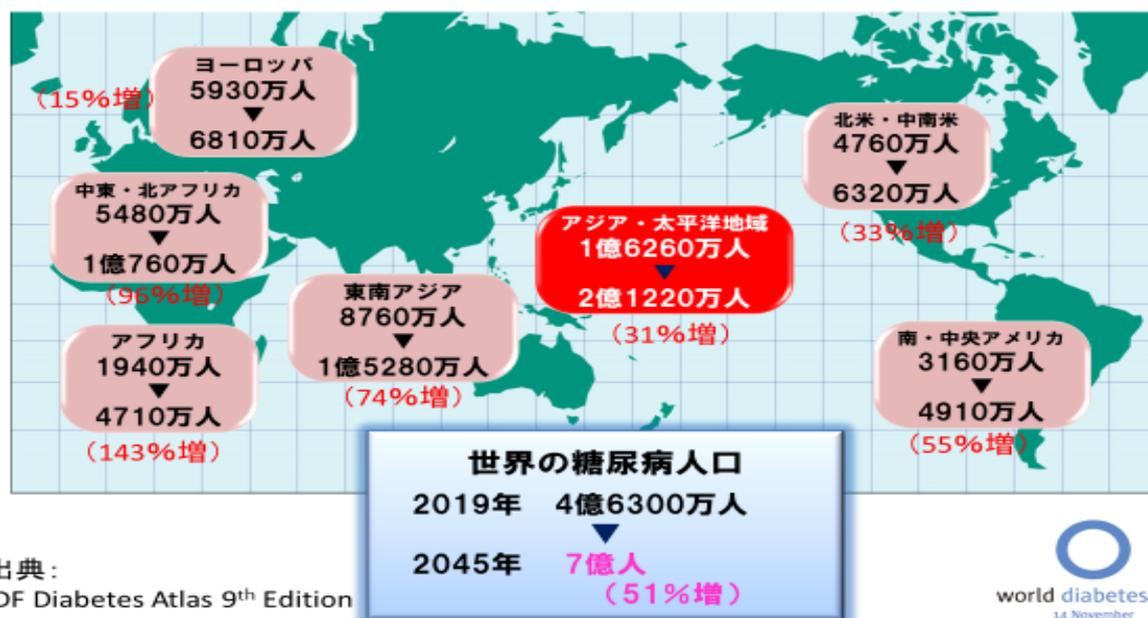
(出典:IDF Diabetes Atlas 9th Edition 2019)

糖尿病のデータ(20-79歳)	2019年(対2017年)	2045年(対2017年予測時)
世界の有病率	9.5% (+0.5%)	10.9% (+1%)
糖尿病患者数	4億6300万人(+3800万人)	7億人(+7100万人)
糖尿病での死亡数	420万人(+20万人)	
耐糖能異常(予備群)		
人口比	7.5% (+0.2%)	8.3% (+0.3%)
人数	3億7390万人(+4880万人)	5億3160万人(+1680万人)
妊娠時の高血糖状態(20-49歳)		
割合	15.8% (-0.4%)	13.3%
影響を受ける出生数	2040万人(-90万人)	1800万人
小児・若年1型糖尿病(0-19歳)		
1型糖尿病患者数	111万100人(+3600人)	
毎年新たに診断される患者数	12万8900人(-3700人)	
糖尿病関連の医療費(20-79歳)	7600億USD/ 約83兆円 (+333億USD)	8450億USD/ 約91兆円 (+690億USD)

### <成人(20-79歳)糖尿病患者数 上位5カ国>

順位	国	2019年患者数	順位	国	2045年患者数
1	中国	1億1640万人	1	中国	1億4720万人
2	インド	7700万人	2	インド	1億3420万人
3	アメリカ	3100万人	3	パキスタン	3710万人
4	パキスタン	1940万人	4	アメリカ	3600万人
5	ブラジル	1680万人	5	ブラジル	2600万人

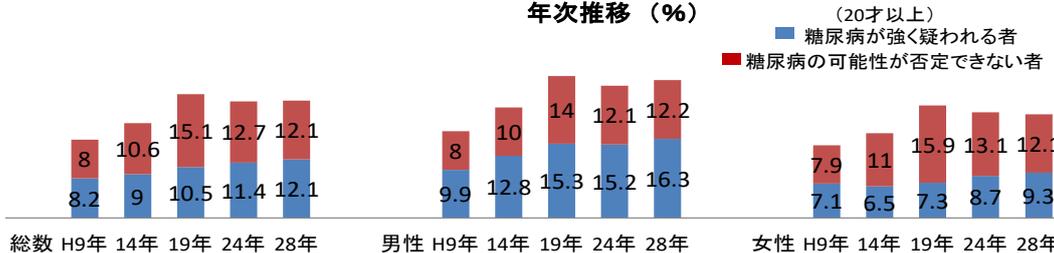
## 世界の糖尿病人口(2019年/2045年)



# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の割合の年次推移 (%)



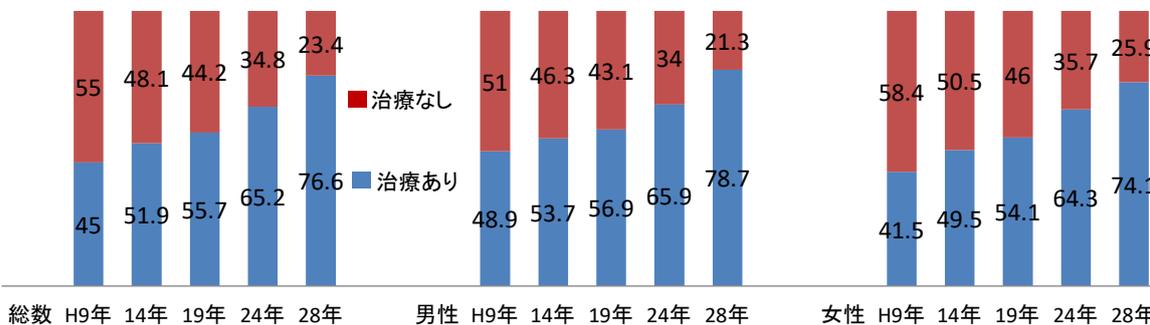
「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の推計人数の年次推移 (万人)



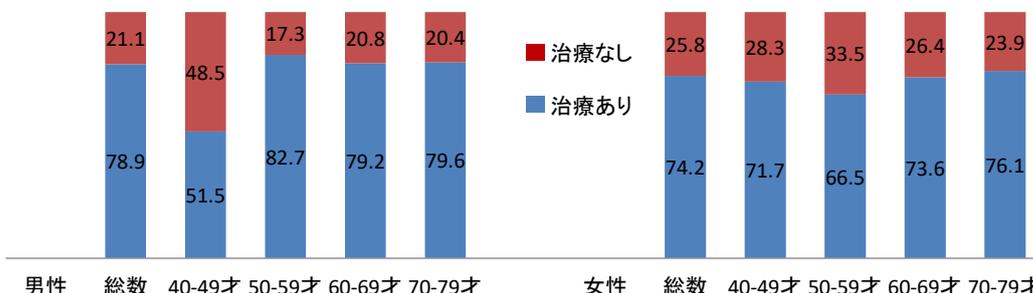
# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」における治療状況の年次推移 (%)



「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況 (%) (40才以上、性・年齢階級別)



## 関連ウェブサイト■

IDF	<a href="http://www.idf.org/">http://www.idf.org/</a>
世界糖尿病デー実行委員会	<a href="http://www.wddj.or.jp/">http://www.wddj.or.jp/</a>
日本糖尿病協会	<a href="http://www.nittokyo.or.jp/">http://www.nittokyo.or.jp/</a>
日本糖尿病学会	<a href="http://www.ids.or.jp/">http://www.ids.or.jp/</a>
日本医師会	<a href="http://www.med.or.jp/">http://www.med.or.jp/</a>
日本歯科医師会	<a href="http://www.ida.or.jp/">http://www.ida.or.jp/</a>
日本糖尿病対策推進会議	<a href="http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html">http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html</a>
厚生労働省 国民健康・栄養調査	<a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html</a>

### ★世界糖尿病デー（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。

### ★世界糖尿病デー実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するために日本糖尿病協会と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。世界糖尿病デーに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントに補助金を支出するほか、多様なメディアを利用して糖尿病啓発を行っています。

### ★IDFとは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、165カ国・地域から240以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の糖尿病に関する国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・日本糖尿病協会もIDFの正会員です。

### ★IDF Diabetes Atlasとは

IDFが発行するDiabetes Atlasは、2000年に初版発行後、2年に一度、IDFと世界の専門家が協力し、糖尿病患者数、発症率、死亡率、世界・地域・国レベルの医療費支出などのデータを収録しています。

\*\*\*\*\*

### ◇世界糖尿病デー、国内ブルーライトアップ・イベントに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp